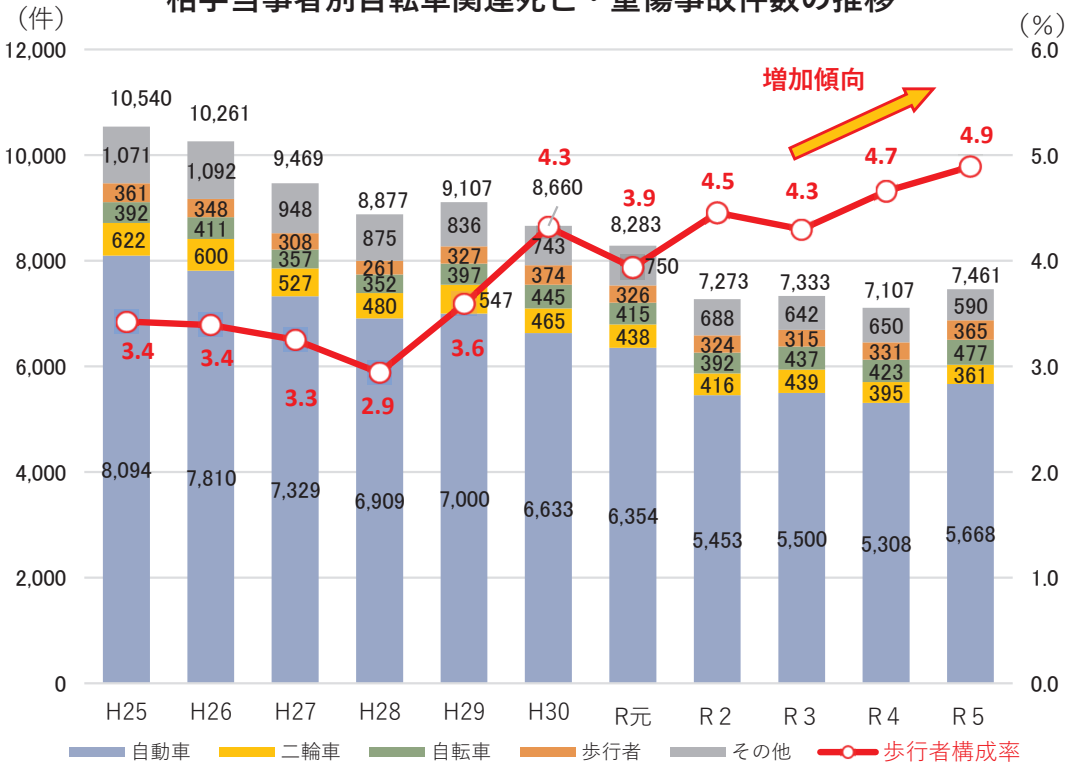
交通事故等の現状を踏まえた全ライフステージで共通して教育すべき基本的な交通ルール　資料6

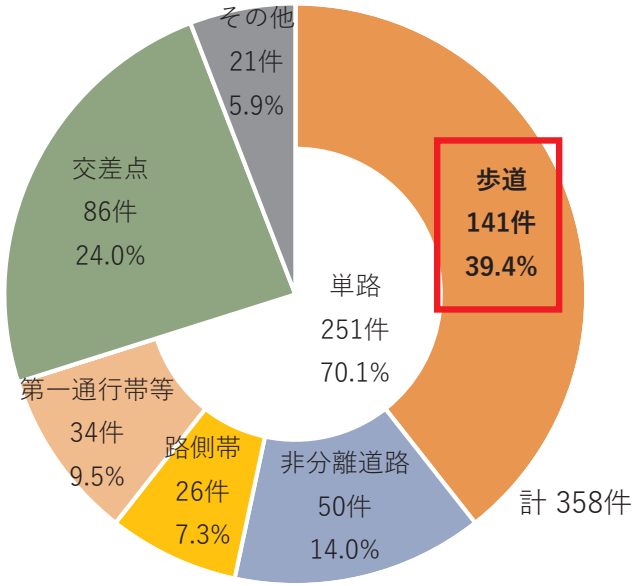
交通事故実態（対歩行者事故）

相手当事者別自転車関連死亡・重傷事故件数の推移



※自転車運転者が第１又は第２当事者となった死亡・重傷事故について、事故の相手方となった当事者別に件数を集計したもの。
※自転車同士の事故は、１件として計上した。
※歩行者構成率とは、自転車運転者が第１又は第２当事者となった死亡・重傷事故のうち、その相手方当事者が歩行者であった割合をいう。

衝突地点別自転車対歩行者の歩行者死亡・重傷事故件数【R５】



※自転車対歩行者事故のうち、歩行者が死亡又は重傷となった件数を計上した。
※「路側帯」とは、歩行者の通行の用に供し、又は車道の効用を保つため、歩道の設けられていない道路又は道路の歩道の設けられていない側の路側寄りに道路標示（白線）によって区画された部分をいう。
※「非分離道路」とは、中央線等により道路の中央が定められていない道路をいう。
※「第一通行帯」とは、中央線等により車両通行帯の設けられている道路の最も左側の通行帯をいう。

- **自転車対歩行者事故の構成率は近年増加傾向（平成25年 3.4% → 令和５年 4.9%）**
- **自転車対歩行者事故のうち、歩行者が死亡又は重傷となった事故の衝突地点別では「歩道」が最多**

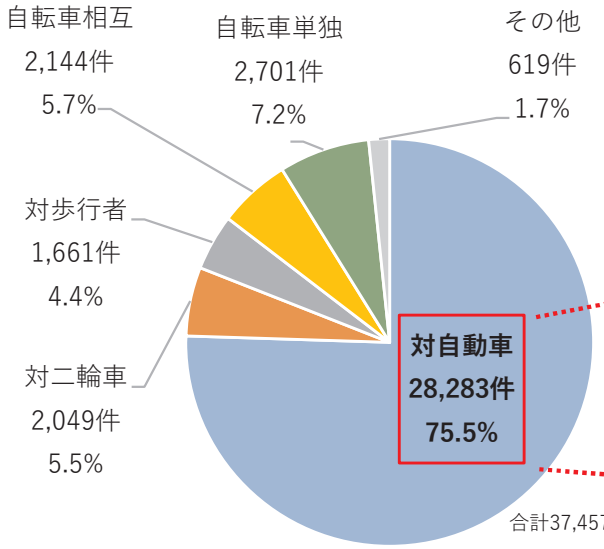
「車道が原則」「歩道は例外」の徹底

歩道等通行時、歩行者保護の徹底

交通事故等の現状を踏まえた全ライフステージで共通して教育すべき基本的な交通ルール

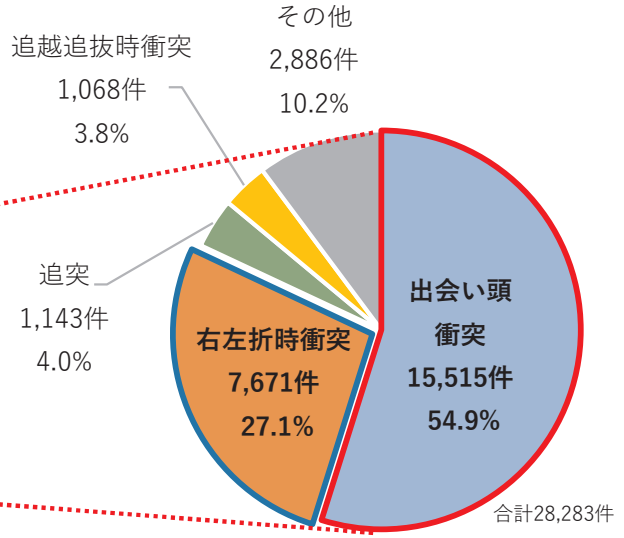
交通事故実態（対自動車事故）

相手当事者別自転車関連死亡・重傷事故件数（第１・２当事者）【Ｒ１～Ｒ５合計】



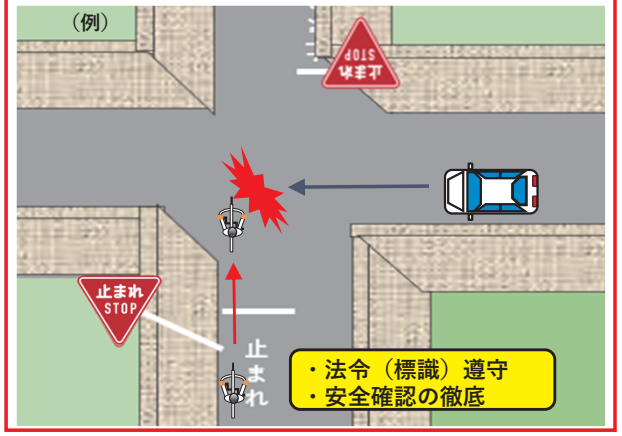
※自転車運転者が第１当事者又は第２当事者となった死亡・重傷事故について、事故の相手方となった当事者別に件数を集計した。

事故類型別「自転車対自動車」死亡・重傷事故件数（第１・２当事者）【Ｒ１～Ｒ５合計】

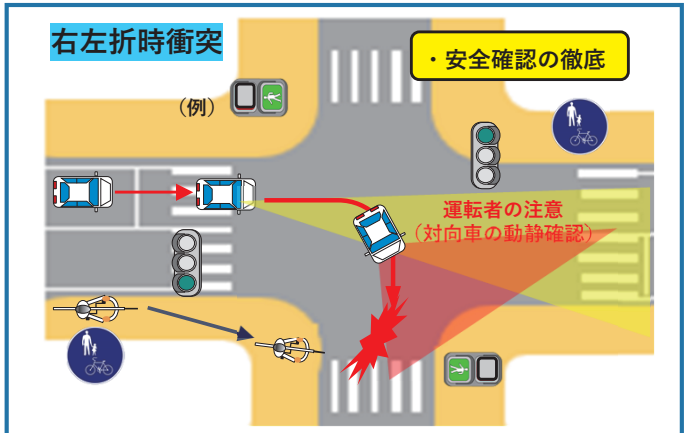


※出会い頭とは、相交わる方向に進行中の車両が双方から行き合うはずみに衝突した類型。

出会い頭衝突（例：指定場所一時不停止）



右左折時衝突



※自動車側の見落とし（対向車への注意、ピラーの死角等）を考慮し、青信号で進行する場合も「安全確認」を徹底

- 自転車関連死亡・重傷事故では、対自動車事故が最多
- 対自動車事故のうち、事故類型別では「出会い頭衝突」「右左折時衝突」が８割以上を占める

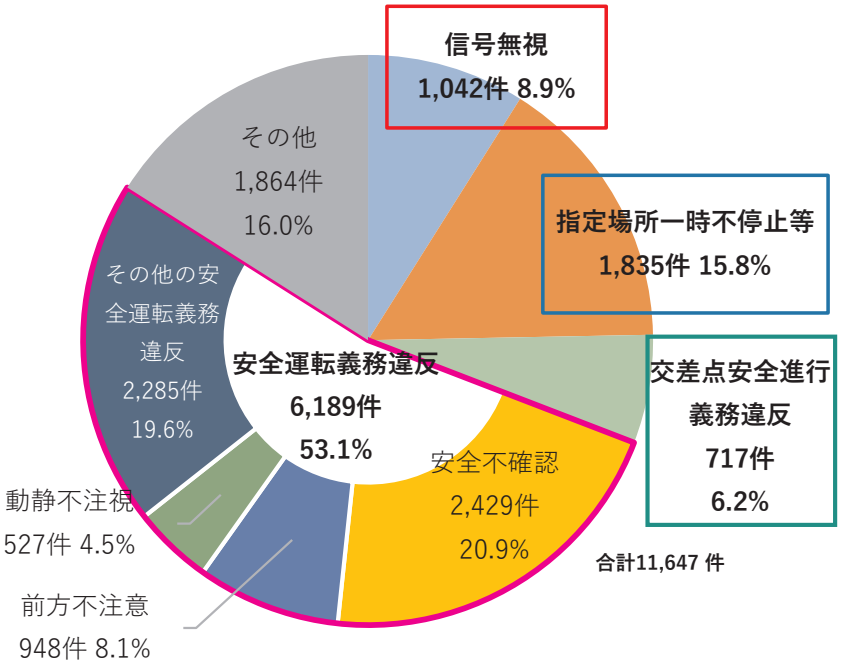
交差点及びその付近通行時の法令遵守

安全確認の徹底

交通事故等の現状を踏まえた全ライフステージで共通して教育すべき基本的な交通ルール

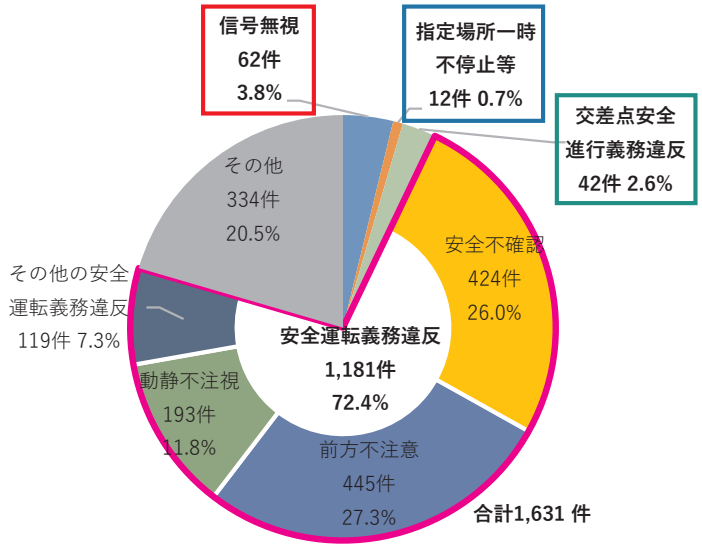
交通事故実態（法令違反状況）

自転車関連死亡・重傷事故における自転車運転者（第１当事者）の法令違反状況【Ｒ１～Ｒ５合計】

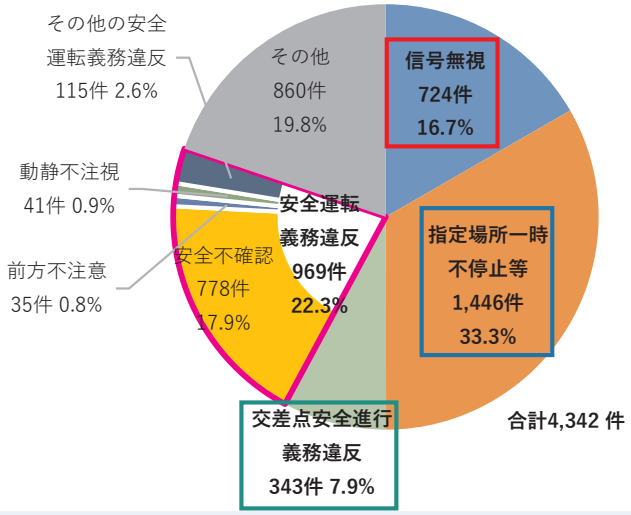


※自転車が第１当事者になった死亡・重傷事故について、　自転車運転者の法令違反別に集計した。

「自転車対歩行者」事故における自転車運転者の法令違反状況



「自転車対自動車」事故における自転車運転者の法令違反状況



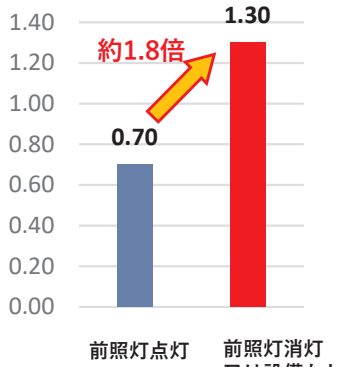
➢ 自転車関連死亡・重傷事故における第１当事者の法令違反状況は、「安全運転義務違反」が最多で次いで「指定場所一時不停止」、「信号無視」、「交差点安全進行義務違反」が多い

安全確認の徹底
信号・標識の遵守

交通事故等の現状を踏まえた全ライフステージで共通して教育すべき基本的な交通ルール

交通事故実態（致死率等）

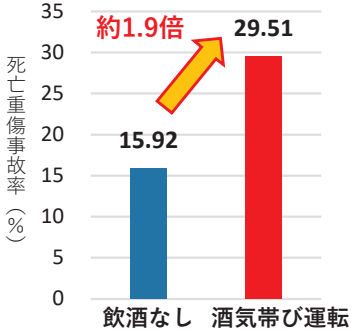
自転車乗用中の夜間前照灯点灯状況別致死率比較【Ｒ１～Ｒ５合計】



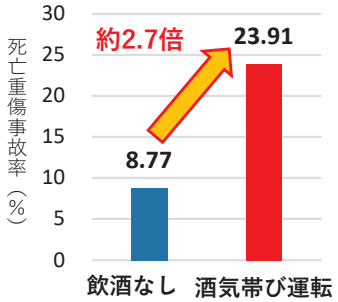
※「致死率」とは、死傷者に占める死者の割合をいう。

酒気帯び運転に起因する自転車の交通事故発生状況【H26～R5合計】

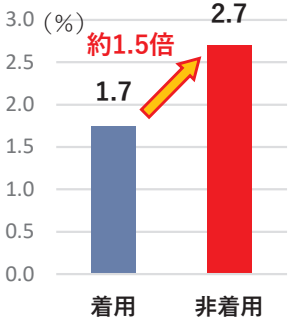
自転車（第１当事者）の交通事故における死亡重傷事故率



自転車（第２当事者）の交通事故における死亡重傷事故率

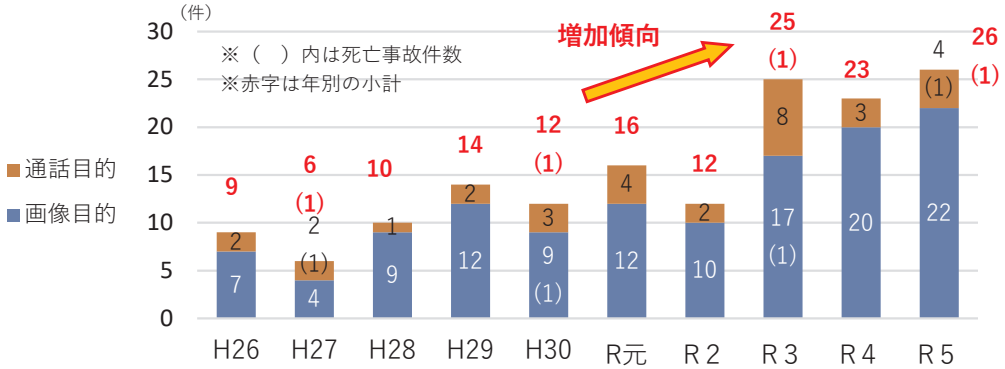


自転車乗用中人身損傷主部位「頭部」のヘルメット着用状況別致死率比較【Ｒ１～Ｒ５合計】



※「致死率」とは、死傷者に占める死者の割合をいう。

携帯電話等使用自転車関連死亡・重傷事故件数の推移（第１・第２当事者）【H26～R5】



- 自転車乗車中の交通事故における**夜間前照灯消灯又は設備なしの場合の致死率は、前照灯点灯の場合と比較して高い**
- 酒気帯び運転に起因する自転車関連事故における**死亡重傷事故率は、飲酒なしの場合と比較して高い**
- 自転車乗車中の交通事故における**ヘルメット非着用の場合の致死率は、ヘルメット着用の場合と比較して高い**
- 携帯電話等使用自転車関連死亡・重傷事故は増加傾向にあり、特に**画像目的による使用が多い**

夜間走行時の前照灯点灯の徹底

法令遵守（飲酒運転の禁止）の徹底

ヘルメット着用の徹底

法令遵守（携帯電話等使用の禁止）の徹底

交通事故等の現状を踏まえた全ライフステージで共通して教育すべき基本的な交通ルール

全ライフステージで共通して教育すべき基本的な交通ルール

交通事故等の現状	【自転車安全利用五則】
➢ 自転車対歩行者事故の構成率は近年増加傾向 ➢ 自転車対歩行者事故のうち、歩行者が死亡又は重傷となった事故の衝突地点別では「歩道」が最多	①車道が原則、左側を通行 歩道は例外、歩行者を優先
➢ 自転車関連死亡・重傷事故では、対自動車事故が最多 ➢ 対自動車事故のうち、事故類型別では「出会い頭衝突」「右左折時衝突」 が８割以上を占める ➢ 自転車関連死亡・重傷事故における第１当事者の法令違反状況は、「安全運転義務違反」が最多で、 次いで「指定場所一時不停止」、「信号無視」、「交差点安全進行義務違反」が多い	②交差点では信号と一時停止を守って、安全確認
➢ 自転車乗車中の交通事故における夜間前照灯消灯又は設備なしの場合の致死率は、前照灯点灯の場合と比較して高い	③夜間はライト点灯
➢ 酒気帯び運転に起因する自転車関連事故における死亡重傷事故率は、 飲酒なしの場合と比較して高い	④飲酒運転は禁止
➢ 自転車乗車中の交通事故におけるヘルメット非着用の場合の致死率は、 ヘルメット着用の場合と比較して高い	⑤ヘルメットを着用
➢ 携帯電話等使用自転車関連死亡・重傷事故は増加傾向にあり、特に画像目的による使用が多い	＋ 「ながらスマホ」の禁止

交通事故等の現状を踏まえ、まずは全ライフステージ共通して、「自転車安全利用五則」を基本行動として実践する必要があり、特に①、②、⑤に重点を置いた教育を推進する必要がある

（※③は小学校下学年以上、「ながらスマホ」の禁止は小学校上学年以上、④は高校生以上等、年齢層や自転車の利用実態に応じて実施）